

ヒグマの捕獲等申請事由書

北海道知事 様

申請者 ○○町長 ○○ ○○

生活環境及び農林水産業被害の防止を目的に、ヒグマの捕獲等をする事由は、次のとおりです

申請頭数	従事者の合計で20頭	過去3～5年間の出没や捕獲状況を記載することになります。	
被害防止の目的	生活環境被害の防止	目撃等の件数	
	出没状況	過去の出没状況	令和○年度 22件 令和△年度 27件 令和□年度 36件
		過去の捕獲等の状況	令和○年度 14頭 令和△年度 19頭 令和□年度 18頭
	出没時期	通年	被害の状況と許可捕獲申請期間及び区域の整合性を確認してください。
	出没区域	○○町一円	
被害状況	農林水産業被害の防止	時期：○月から○月	
	被害発生区域(場所)	区域：○○町一円	
	被害の内容(被害作物等)	内容：令和○年度デントコーン(被害額5,302千円 13.4ha) 令和△年度デントコーン(被害額2,187千円 7.4ha) 令和□年度デントコーン(被害額2,454千円 8.6ha)	
捕獲等の方法等	○銃器	班数：1班	※過去の出没状況や被害の状況が野生鳥獣被害調査取扱要領の調査表で確認できる場合 →「被害防止の目的」欄の省略可能です。 ただし、省略する欄に被害状況の出典を明記してください。
	・駆除隊の班数、隊員数	隊員：6名	
	○はこわな	長方形の鉄檻	
	設置するはこわなの形状	最大設置個数：2	
	最大設置個数・管理体制	管理体制:町職員、従事者の2名1組による朝・夕毎日の巡視	
銃器での対応状況	周辺の視界が確保できる場所については銃器で対応しているが、収穫前の畑等においては銃器での対応が困難。		
被害防除対策の内容	巡視、例年の出没地域付近の注意看板の設置、電気柵の設置		
捕獲後の止めさし体制	第一種銃猟の従事者が行う。	ヒグマの捕獲について、銃のみでは難しく、はこわなの使用を必要とする状況であることを示してください。	
備考			

- (注) 1 この様式は、人間の生活圏域における生活環境被害、農林水産業被害の防止目的の捕獲許可申請に適用する(くくりわなでの捕獲等を除く。)
- 2 申請書に添付する捕獲等の区域を明らかにした図面は、原則として5千分の1以上(現に出没している個体等のはこわなによる対応)又は2万5千分の1以上(現に出没している個体等の銃器による対応)もしくは5万1以上(予察捕獲)の縮尺とする。ただし、市町村一円など区域が明らかな場合は省略することができる。
- 3 過去の出没状況や被害の状況が、野生鳥獣被害調査取扱要領の獣類による農林水産業被害状況調査表(第2号 様式)及びヒグマ出没状況調査表(第3号様式)により把握できる場合はその旨を記載し、被害状況資料の添付を省略することができる。
- 4 はこわなで捕獲等をする場合は、その構造等を表した図面又は写真を添付すること。
- 5 ゾーニング計画等に基づき捕獲を実施する場合は、当該計画の策定年月日が確認できる資料(決定書写し、策定年月日が記載されている市町村のホームページ画面写しなど)を添付すること。

